Wireless LAN AP-11

取扱説明書

無線 LAN カード「corega Wireless LAN PCC-11」で
アクセスポイントを使用して（インフラストラクチャモードで）
通信する場合の設定方法は、必ず、本書をお読みください。

http://www.corega.co.jp/

PN J613-M7031-00 Rev.B 000605

安全のために

必ずお守りください

警告 下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

雷のときは
さわらない

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)

異物厳禁

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

設置場所
注意

交流 100V の電源でお使いください

異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

電圧注意

付属の AC アダプター以外で使用しない

火災や感電の原因となります。
必ず、付属の AC アダプターを使用してください

付属品を
使え

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

たこ足禁止

ＡＣ アダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。

傷つけない

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

プラグを抜け

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　堅く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

シンナー類不可

はじめに

この度は、「corega Wireless LAN AP-11」 無線 LAN 用アクセスポイントをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。 このマニュアルは、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- corega Wireless LAN AP-11 本体
- AC アダプター（ケーブル長 1.8m）
- 壁掛け用取り付け金具
- 壁掛け金具取り付けネジ 3 本
- ゴム足（4 個）
- 取扱説明書
- シリアル番号ラベル
- 電波干渉注意ラベル

本製品の最新情報

本製品に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、コレガのホームページでお知らせします。無線 LAN に関する情報や活用例などもご紹介しておりますので、是非、コレガのホームページをご覧ください。

corega のホームページ　http://www.corega.co.jp/

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談して下さい。

3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターにお問い合わせ下さい。

目次

1 概要 6
1.1 特長 6
1.2 ネットワーク構成例 6
1.3 各部の名称と働き 7
1.4 本製品の設置と接続 8
1.4.1 設置時の注意 8
1.4.2 壁への取り付け 8
1.4.3 本製品の接続 9

2 本製品の設定 9
2.1 コンピュータの設定 9
2.2 WEB からの設定変更 10
2.2.1 基本設定の変更 10
2.2.2 暗号の設定 12
2.2.3 パスワードの設定 13
2.2.4 設定終了 14

3 無線 LAN カードの設定 14
3.1 設定を変更する前に 14
3.2「Configuration Utility」による設定変更 14
3.2.1 基本設定 14
3.2.2「暗号」の設定 15
3.3 コンピュータの「ネットワーク」設定 16
3.4 ネットワーク接続の確認 17
3.4.1 アクセスポイントの通信状態の確認 17
3.4.2 無線 LAN カードの接続情報の確認 18
3.4.3「ネットワークコンピュータ」から確認 18
3.4.4「Ping」で接続を確認 19

4 設定管理ツールの詳細説明 19
4.1 起動方法 19
4.2 AP 情報 20
4.3 通信状態 20
4.4 設定 20
4.4.1 AP 設定 20
4.4.2 パスワード 21
4.5 ファームウェア 21
4.5.1 ファームウェア更新の準備 21
4.5.2 ファームウェア更新 21
4.6 再起動 23

5 トラブルシューティング 23
5.1 設定画面が表示されない 23
5.1.1 有線側のコンピュータと接続できない 23
5.1.2 設定画面が表示されない 24
5.2 無線 LAN カードを付けたコンピュータと接続できない 24
5.2.1 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない 24
5.2.2 無線 LAN カードとアクセスポイントの設定が合っていない 25
5.3「ネットワークコンピュータ」に他のコンピュータが表示されない 25
5.4 正常に動作しない 25
5.5 その他 25
5.5.1 パスワードを忘れてしまい、本製品にアクセスできない 25
5.5.2 無線 LAN 通信ができなくなった 25
5.5.3 近くのアクセスポイントに接続されない 26
5.5.4 IP アドレスの設定方法がわからない 26
5.5.5 本製品の使用環境について 26

A 付録 27
A.1 製品仕様 27
A.2 MAC アドレス 27

B TERMINAL ポートからの設定 28
B.1 用意するもの 28
B.2 本製品とコンピュータの接続 28
B.3 ターミナルソフトの設定と起動 28
B.4 本製品の設定 29
B.4.1 情報表示 30
B.4.2 設定変更 31
B.4.3 設定終了 32

C 用語集 33
C.1 本製品の設定に関する用語 33
C.2 ネットワーク関連の用語 33

D 保証と修理について 34
D.1 保証について 34
D.2 修理について 34

E ユーザーサポートについて 34
E.1 corega Net-News の購読について 34
E.2 調査依頼書のご記入のお願い 34
E.3 最新ファームウェアの入手方法 35

F おことわり 35

1 概要

1.1 特長

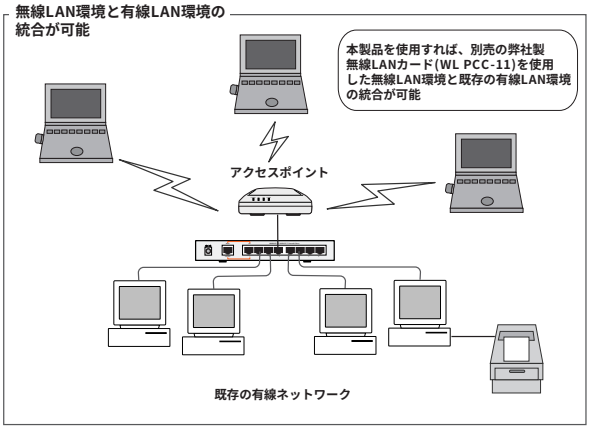
corega Wireless LAN AP-11（以下 「WL AP-11」と略します）は以下の特長をもつ無線用アクセスポイントです。

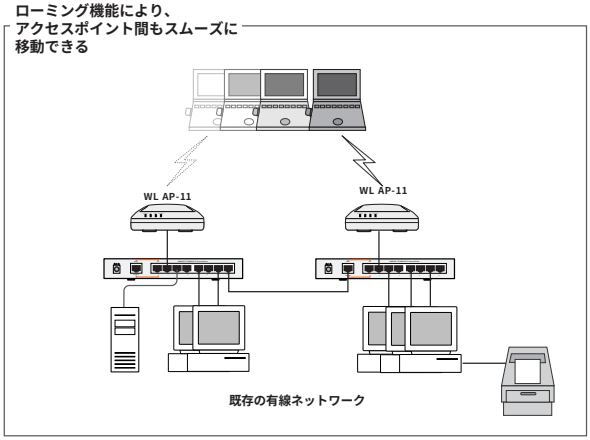
- 別売の無線 LAN 用カード（corega Wireless LAN PCC-11）と一緒に使用すれば、既存の有線 LAN 環境と無線 LAN 環境を統一したネットワークの構築が可能
- 2.4GHz 帯の小電力通信システムを使用しているため無線免許が不要
- 直接拡散変復調によるスペクトラム拡散方式（DS-SS）の採用によりノイズにも強い
- IEEE802.11b に準拠し、無線上での通信速度 11Mbps の通信が可能
- 通信可能距離は、屋外 150m/ 屋内 50m（送信速度 11Mbps 時には、屋外 60m/ 屋内 30m）
- 1～14チャンネルを切り替えて使用することができるので、チャンネルごとのワークグループの設定も可能
- WEP 方式による暗号化機能と SSID によるグループ識別機能で二重のセキュリティ対策
- 良好な通信状態を得られるように、2本のアンテナを内蔵し、通信状況に応じて切り替えて使用
- 本製品の通信状態の監視・制御、または設定の変更・確認が遠隔操作で可能（有線側からも無線側からも可能）
- 動作状態を表示する LED を装備
- 専用取り付け金具を使用すれば、壁掛け設置も可能

1.2 ネットワーク構成例

本製品を使用したネットワーク構成例を次に示します。

ケーブルテレビ（CATV）との接続例については、弊社のホームページをご覧ください。





1.3 各部の名称と働き

図 1.3.0.1 ～図 1.3.0.3をもとに各部の名称と働きを説明します。

① Power LED
電源が正常に供給されているときに、橙色で点灯します。

② Tx LED
無線側にデータを送信している時に緑色で点灯します。

③ Rx LED
有線側からデータを受信している時に橙色で点灯します。

④ Alarm LED
本製品に異常が発生した場合に、赤色で点灯します。

⑤ 10BASE-T ポート
10BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクターです。ハブやスイッチなどと接続する場合には UTP ストレートケーブルを、LAN アダプターを取り付けたコンピュータと接続する場合には UTP クロスケーブルが必要です。

⑥ TERMINAL ポート
RS232C リバース（クロス）結線のケーブルを接続し、本製品のファームウェアのアップデートなどを行うためのコネクターです。

⑦ DC ジャック
AC アダプターの DC プラグを接続するためのコネクターです。

⑧壁掛け金具取り付け溝
壁掛け用取り付け金具を使用して、本製品を壁に取り付ける場合は、この溝に、取り付け金具の引っかけ部分を差し込みます。取り付け方の詳細は、「1.4.2 壁への取り付け」（p.8）を参照してください。

⑨警告ラベル
本製品を安全にご使用いただくために重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

⑩シリアル番号ラベル
本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。同じものが、3 枚同梱されており、パッケージ（外箱）にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、「製品保証書」に貼付してください（残る 2 枚は予備です）。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへ問い合わせをする時に必要な情報です。

⑪ MAC アドレスラベル
本製品の MAC アドレスが記入されています。MAC アドレスについては、「A.2 MAC アドレス」（p.27）をご覧ください。

上面

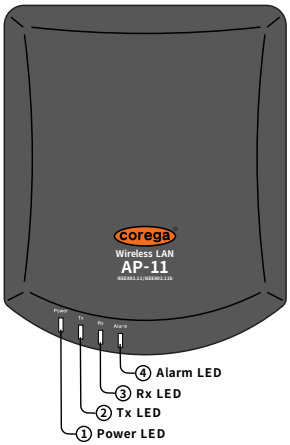


図 1.3.0.1 外観図（上面）

背面

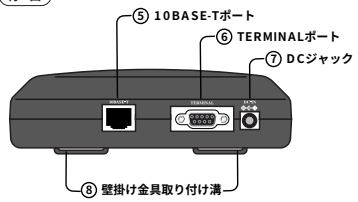


図 1.3.0.2 外観図（背面）

裏面

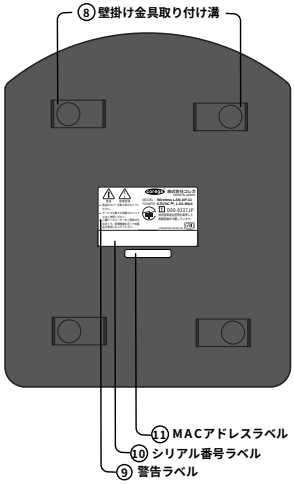


図 1.3.0.3 外観図（裏面）

本製品に内蔵されている無線 LAN カードには、2.4 DS 2 記号が表示されています。この表示は、次の内容を意味します。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」 あるいは「特小局」帯域を回避可能

1.4 本製品の設置と接続

1.4.1 設置時の注意

本製品を設置する前に、「安全のために」(p.2)、「 電波に関する注意」（p.4）を必ずお読みください。
無線通信を行うアクセスポイントは、無線 LAN カード（WL PCC-11）を取り付けたコンピュータから見通せる位置に設置してください。本製品のサービスエリアは、屋外で150m、屋内で 50m(11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m）になります。

注意 コネクターの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

注意 本体の上には、物を置かないでください。本製品の上部にはアンテナが内蔵されています。本体の上に物を置いたりすると、電波状態や通信状態に影響を与える場合があります。

1.4.2 壁への取り付け

同梱されている壁掛け用取り付け金具を使用すると、本製品を壁などに取り付けて使用することができます。取り付け手順は次の通りです。

(1) 次の点を考慮して、本製品を設置する場所と、取り付ける方向を決めてください。

- UTP ケーブルおよび AC アダプターの接続が可能であること。
- 本体上面にある、LED の表示が監視できること。

(2) 本製品を取り付ける位置が決まったら、壁掛け金具を、本製品に同梱されている取り付けネジで壁に取り付けます。壁掛け金具は、次の図に示した方向で取り付けてください。
壁が柔らかくネジがたたない場合は、プラスチックアンカーを使用するなど工夫してください。

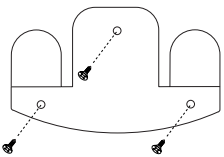


図 1.4.2.1 壁掛け金具の取り付け方向

(3) 壁掛け用金具の出っ張っている部分に、本製品裏面にある溝を引っかけます。

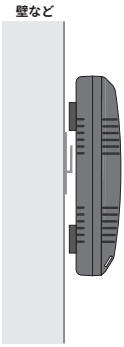


図 1.4.2.2 壁掛け金具に本製品を引っかける

(4) 製品を取り付ける方向は、次の図に示すように、上向き／下向きのどちらにも対応できます。

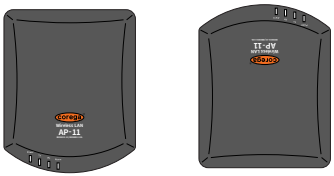


図 1.4.2.3 LED を下にして取り付けた場合（左）と上にして取り付けた場合（右）

注意 高所に取り付ける際には、特に注意して、確実に壁に固定してください。固定が不十分な場合、落下による怪我や、本製品が破損するおそれがあります。

注意 取り付け面の状態、取り付けネジによっては、十 分な取り付け強度を得られないことがあります。機器およびケーブルの重みによって本製品が落下しないよう、確実に、取り付け・設置を行ってください。 怪我や、本製品の破損の原因になることがあります。

注意 振動・衝撃の多い場所や、不安定な場所には設置しないでください。落下による怪我や、本製品の故障の原因になることがあります。

注意 取り付け面によっては、本製品の設置の際に、被着面の塗装などに傷が付く場合があります。

1.4.3 本製品の接続

次の手順に従って、本製品を有線 LAN に接続します。

(1) 本体背面の 10BASE-T ポートに、UTP ストレートケーブルの RJ45 コネクタを接続します。

(2) ケーブルのもう一方のコネクタを有線 LAN に接続します。「図 1.4.3.1 接続例」では、ハブまたはスイッチのポートに接続しています。（ハブまたはスイッチのカスケードポートには接続しないでください。）

(3) AC アダプターの DC プラグを、本製品背面の DC ジャックに差し込んでから、AC プラグをコンセントに接続します。

(4) 本製品前面の Power LED が点灯していることを確認します。ハブまたはスイッチと接続した場合は、接続したポートの LINK LED が点灯していることを確認します。

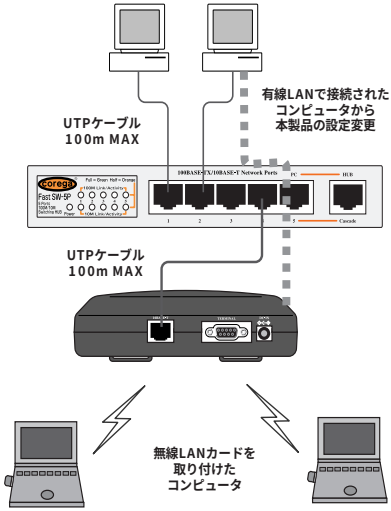


図 1.4.3.1 接続例

2 本製品の設定

本製品の設定は、WEB 上で行うことができます。有線 LAN よって本製品に接続されたコンピュータから、本製品にアクセスして設定を変更します。
ここでは、有線 LAN 側のコンピュータからの設定例について説明しますが、無線 LAN 側のコンピュータからの設定も可能となります。

本製品と、設定変更を行うコンピュータだけが接続された環境で、本製品の設定を行うことを推奨いたします。

有線 LAN からの設定ができない場合は、本製品の TERMINAL ポートからも設定が可能です。詳細については、「B TERMINAL ポートからの設定」（p.28）を参照してください。

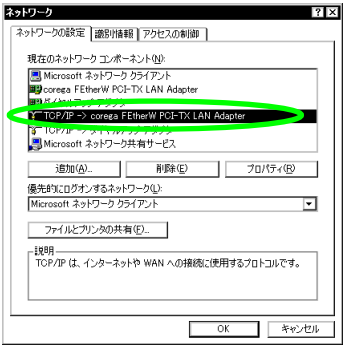
2.1 コンピュータの設定

本製品にアクセスできるように、設定変更を行うコンピュータの IP アドレスを変更します。

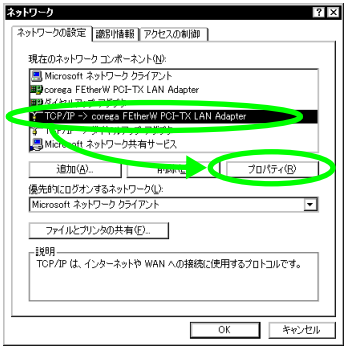
(1) 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」→「コントロールパネル」を選択します。

(2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(3) 「ネットワークの設定」タブの、「現在のネットワークコンポーネント」に「TCP/IP プロトコル」（「TCP/IP →ご使用の LAN アダプター」）が含まれていることを確認します。

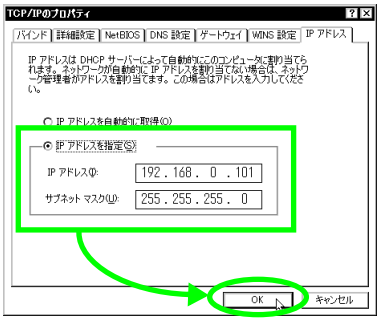


(4) 「TCP/IP プロトコル」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。



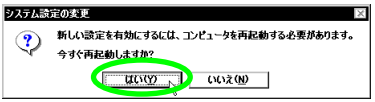
(5) 「IP アドレス」タブで、「IP アドレスを指定」をクリックし、「IP アドレス」と「サブネットマスク」に値を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「IP アドレス」には、「192.168.0.xxx」（xxx は、230 を除く 1 から 254 までの値）を、「サブネットマスク」には、「255.255.255.0」を設定します。

注意 変更前の IP アドレスは、メモをとるなどして記録し、本製品の設定後にもとの値に戻せるようにしてください。



(6) 「OK」ボタンをクリックします。

(7) 「はい」ボタンをクリックして、コンピュータを再起動します。



2.2 WEB からの設定変更

WEB ブラウザーを起動し、本製品の設定を変更します。

注意 デフォルトの SSID のままでご使用になりますと、他の無線 LAN ユーザーからの接続が可能となる場合があります。第三者からの不正なアクセスを防止し、セキュリティを確保するためにも、独自の SSID を設定してご使用になることをお勧めします。

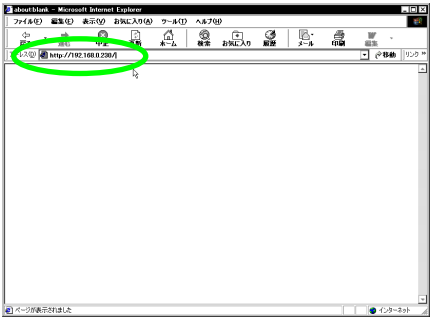
注意 本製品の近くに、SSID とチャンネル設定が同じアクセスポイントが存在すると、無線 LAN カードとの通信ができなくなります。複数台のアクセスポイントを近接したエリアでご使用になる場合には、アクセスポイントごとに異なるチャンネルを設定してご使用ください。

2.2.1 基本設定の変更

(1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として、説明します。

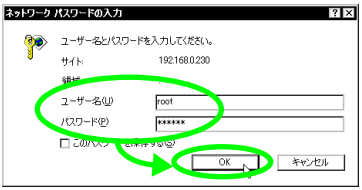
WEB ブラウザーは、「Internet Explorer 4.x」または「Netscape 3.x 」以降をご使用ください。

(2) 「アドレス」に「http://192.168.0.230/」と入力し、「Enter」キーを押します。

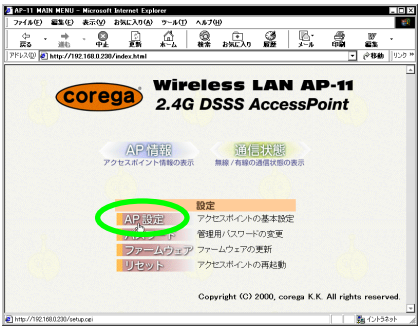


(3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。
「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、「パスワード」に、デフォルトの「corega」を入力します。

入力したパスワードは、「*」で表示されます。

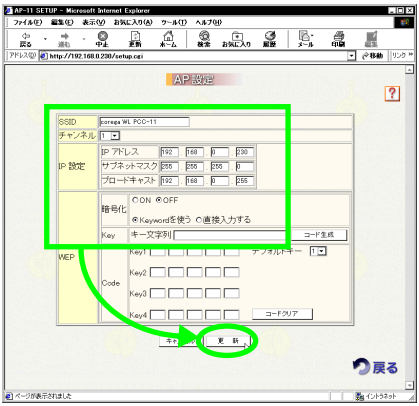


(4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。「AP 設定」をクリックします。



(5) 「AP 設定」画面が表示されます。「SSID」「チャンネル」「IP 設定」「WEP」の設定を行い、「更新」ボタンをクリックします。設定の変更を取り消したい場合には、「キャンセル」ボタンをクリックします。
本製品を再起動しないと、設定の変更は有効になりません。

「更新」ボタンをクリックすると、「設定更新の確認」画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックして、本製品を再起動してください。
また、ここで設定した値については必ず、巻末のメモ欄に記録するなどして忘れないように注意してください。



・「SSID」の設定
SSID は、同じネットワークグループに属する機器同士を識別する名前です。異なる SSID の機器同士では通信ができませんので、独自の SSID を設定することでグループ内の通信のセキュリティを確保することができます。
SSID は、半角英数 32 文字以内で設定します（大文字、小文字も区別されます）。インストール時のデフォルトは、「corega WL PCC-11」です。

注意
他の無線 LAN ユーザーからの不正なアクセスを防止するためには、デフォルトの SSID を変更し、独自の SSID を設定してご使用になることをお勧めします。

・「チャンネル」の設定
本製品と、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータ間の無線通信で使用するチャンネルを設定します。デフォルトの設定は、「1」です。

注意
複数台のアクセスポイントに同じ SSID を設定して使用する場合は、必ず、異なるチャンネルを設定してご使用ください。また、電波の干渉を防ぐために、チャンネル番号は間隔をあけて設定してください。
設定例： チャンネル 1、6、11、14

・「IP アドレス」の設定
本製品の「IP アドレス」を設定します。また、本製品が属するネットワークグループの「サブネットマスク」「ブロードキャスト」を設定します。IP アドレスなどの詳細に付きましては、ネットワーク管理者に確認してください。

本製品は、「IP アドレスの自動取得（DHCP）」には対応していませんので、手動で IP アドレスを設定してください。

注意

ここで設定した「IP アドレス」は、必ず巻末のメモ欄に記録するなどして、忘れないように注意してください。「IP アドレス」を忘れると、本製品にアクセスできなくなります。万が一、本製品とアクセスできなくなった場合には、「BTERMINAL ポートからの設定」(p.28) を参照してください。

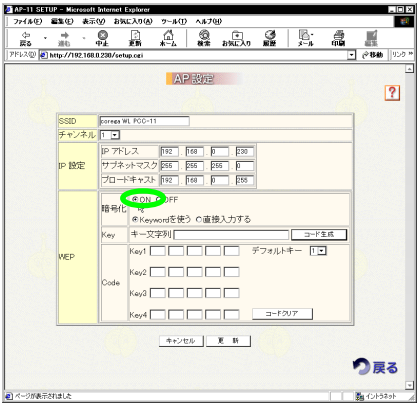
・**「WEP」の設定**
無線通信での「暗号」を設定します。暗号の設定手順については、次の「2.2.2 暗号の設定」を参照してください。

2.2.2 暗号の設定

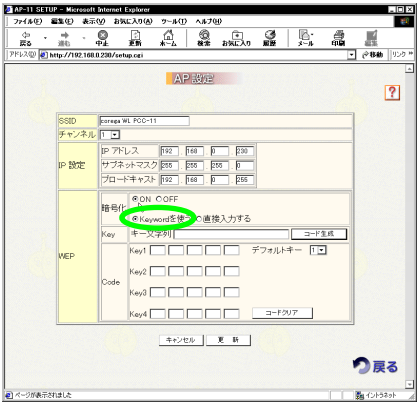
暗号を設定する手順は、次の通りです。

暗号化を有効にして本製品を使用する場合は、通信速度が若干低下しますので、予めご了承ください。

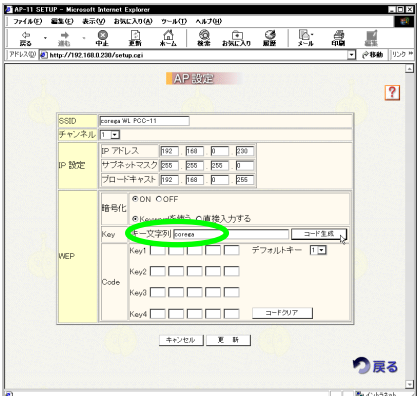
(1) 「暗号化」の「ON」をクリックします。



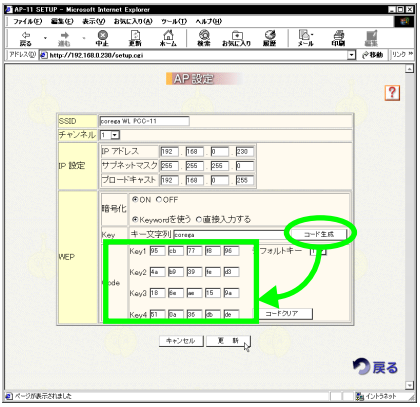
(2) ここでは、「キー文字列」を使用して、暗号を設定する手順について説明します。
「Keyword を使う」をクリックします。



(3) 「キー文字列」に任意の半角英数文字を入力します。

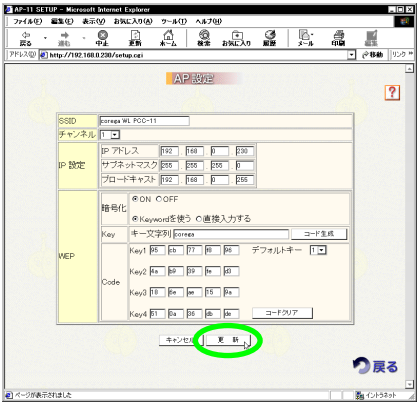


(4) 「コード生成」ボタンをクリックすると、「Code」に 4 種類のキーが表示されます。



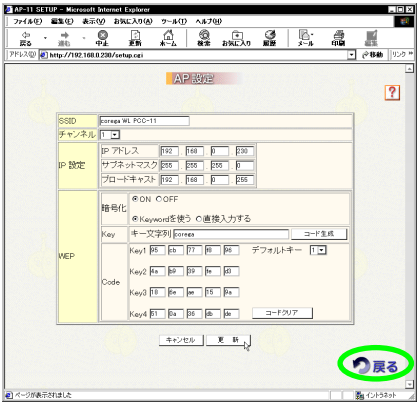
アクセスポイントに「暗号」を設定する場合、同じ「SSID」を設定したアクセスポイントがある場合には、そのアクセスポイントにも同じ「暗号」設定を行ってください。

(5) 「更新」ボタンをクリックすると、暗号が設定されます。



「WEP」で、キー文字列を入力して暗号化キーを生成した場合には、「デフォルトキー」の設定は無効です。「デフォルトキー」の設定は、キー文字列を入力せず、「key1～ key4」に直接数値（16進数値）を入力した場合に有効となります。

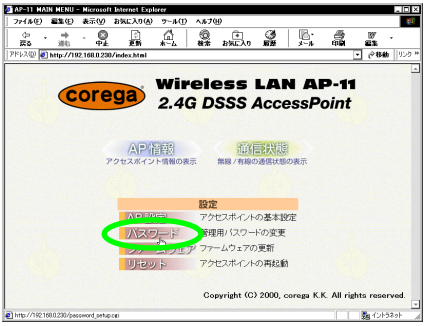
(6) 「戻る」ボタンをクリックします。



2.2.3 パスワードの設定

本製品へのアクセスを制限するために、「パスワード」を設定することができます。 デフォルトの設定のままでも使用可能ですが、セキュリティ保護のためにも、必ず、パスワードを設定し直してお使いください。

(1) 「パスワード」をクリックします。

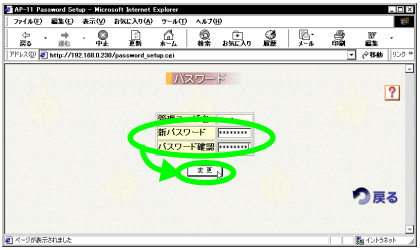


(2) 「新パスワード」に新しく設定するパスワードを入力し、「パスワード確認」に同じパスワードを入力します。「変更」ボタンをクリックすると、新しいパスワードが設定されます。

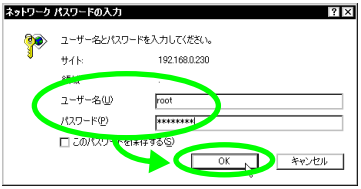
入力したパスワードは、「*」で表示されます。

注意

ここで設定した「パスワード」は、忘れないように注意してください。「パスワード」を忘れると、本製品にアクセスできなくなります。万が一、パスワードを忘れてしまい本製品にアクセスできなくなった場合には、「5.5.1 パスワードを忘れてしまい、本製品にアクセスできない」（p.25）を参照してください。



(3) WEB ブラウザーを終了し、新しいパスワードを入力して、本製品にアクセスし直してください。



2.2.4 設定終了

(1) 本製品の設定が終了したら、WEB ブラウザーを終了します。

(2) 本製品にアクセスするためにコンピュータの TCP/IPアドレスなどを変更した場合は、必ず元の設定に戻してください。

3 無線 LAN カードの設定

別売の無線 LANカード（corega Wireless LAN PCC-11）を使用して、アクセスポイント経由で無線通信を行う場合は、無線 LANカードの設定も変更する必要があります。無線LANカードの設定変更は、カードを取り付けたコンピュータで行います。次の 2 段階の手順を実行します。

- 無線 LAN カードの設定変更
- 無線 LAN カードを取り付けたコンピュータの「ネットワーク」設定

3.1 設定を変更する前に

設定を変更する前に、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータで次の項目を確認してください。

- 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされているか
- 無線 LAN カードのユーティリティープログラムがインストールされているか

ドライバーまたは、ユーティリティープログラムのインストールについては、「corega Wireless LAN PCC-11」の取扱説明書を参照してください。

3.2「Configuration Utility」による設定変更

3.2.1 基本設定

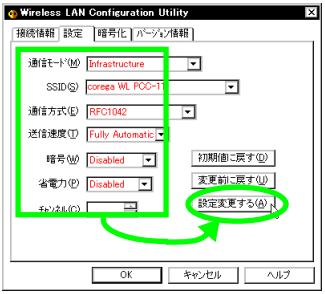
(1) タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。

［無線アイコンの表示例］

タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」メニューから「プログラム」→「corega WL PCC-11」→「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

(2) 「設定」タブをクリックして、各項目の設定を変更します。設定を変更したら、「設定変更する」ボタンをクリックします。

注意 設定を変更した場合は、必ず「設定変更する」ボタンをクリックしてください。「設定変更する」ボタンをクリックしないと、設定は有効になりません。



・「通信モード」
無線 LAN のネットワーク構成を設定します。アクセスポイントを使用してネットワーク接続する場合には、「Infrastructure」モードを選択します。

・「SSID」
無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータ、アクセスポイントには同じ SSID を設定します。SSID は、半角英数 32 文字以内で設定します（大文字、小文字も区別されます）。インストール時のデフォルトは、「corega WL PCC-11」です。現在の SSID の設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
ここでは、アクセスポイントのデフォルトの SSID「corega WL PCC-11」に設定します。

・「送信速度」
送信速度は、「Fully Automatic」、「1Mb」、「2Mb」、「Auto 1 or 2Mb」、「5.5Mb」、「11Mb」の中から選択できます。
帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、デフォルトの「Fully Automatic」の設定のままでご使用ください。

・「通信方式」
通信方式は、「Encapsulated」、「RFC1042」、「802.1h」の中から選択できます。
「Infrastructure」モード時には、「RFC1042」を選択します。

・「暗号」
無線通信で、暗号を使用するか使用しないかを選択します。暗号を使用する場合には、「Mandatory」を選択します。暗号を使用しない場合には、「Disabled」を選択します。
「暗号」を使用する場合には、「3.2.2 「暗号」の設定」(p.15) を参照してください。

・「省電力」
省電力機能を使用するか、しないかを選択します。省電力機能を使用する場合には、「Abled」を選択し、使用しない場合には、「Disabled」を選択します。
現在は対応しておりませんので、「Disabled」のままでご使用ください。

・「チャンネル」
「Infrastructure」モードで使用する場合は、アクセスポイントを検索するときに、使用しているチャンネルも自動的に検索しますので、設定する必要はありません。

「設定変更する」ボタンをクリックすると、同じ「SSID」が設定されているアクセスポイントを検索します。また、複数のアクセスポイントが存在する場合は、電波状態の良い方のアクセスポイントを選択します。
アクセスポイントの検索に成功すると、無線アイコンの表示も接続状態を示すように変化します。

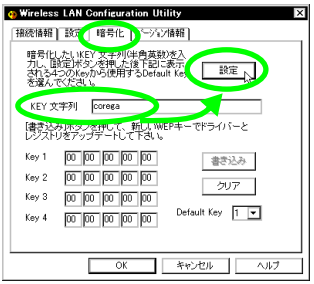
［通信状態が良好な場合の無線アイコン］

［通信状態が不良な場合の無線アイコン］

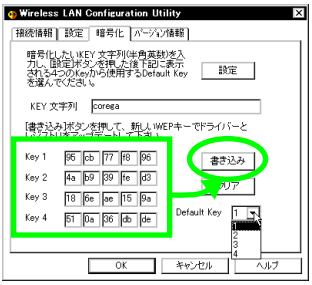
3.2.2 「暗号」の設定

本製品では、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。暗号を使用して通信を行うためには、暗号を使用するグループのコンピュータ全てで、同じ暗号を設定する必要があります。
次に、キー文字列を設定して「暗号」を設定する手順について説明します。

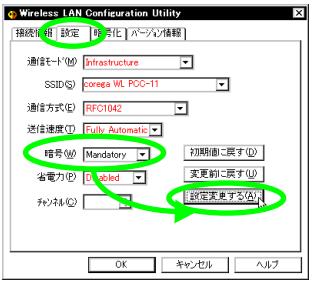
(1) 「Configuration Utility」の「暗号化」タブをクリックします。「キー文字列」に、アクセスポイントで設定したのと同じ文字列を入力してから、「設定」ボタンをクリックします。入力した文字の大文字と小文字は区別されます。



(2) 「key1」から「key4」に 40 ビットの暗号キーが表示されます。「書き込み」ボタンをクリックすると、暗号キーが設定されます。



(3) 「設定」タブをクリックします。「暗号」で「Mandatory（暗号を使用する）」を選択し、「設定変更する」ボタンをクリックします。



(4) これで、設定は終了です。暗号を使用して通信するには、通信を行う全てのコンピュータ、アクセスポイントに同じ設定をしなければなりません。通信するコンピュータが他にもあれば、その台数分、この設定作業を繰り返してください。ただし、暗号キーの設定後、「Configuration Utility」を終了（「Wireless LAN Configuration Utility」ウィンドウを閉じる）してから、再度、「Configuration Utility」を起動すると、「暗号化」タブには、設定したキー文字列や暗号化キーは表示されません。

「暗号化」タブで、キー文字列を入力して暗号化キーを設定する場合には、「default key」の設定は無効です。「default key」の設定は、キー文字列を入力せず、「key1 ～ key4」に直接数値（16 進数値）を入力した場合に有効となります。

3.3 コンピュータの「ネットワーク」設定

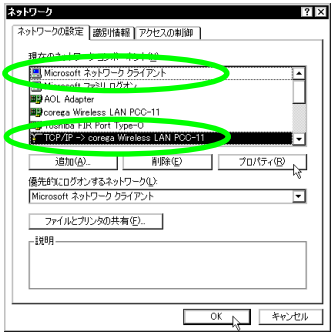
ここでは、「TCP/IP」プロトコルを使用する場合の手順について説明します。

(1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。

(2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

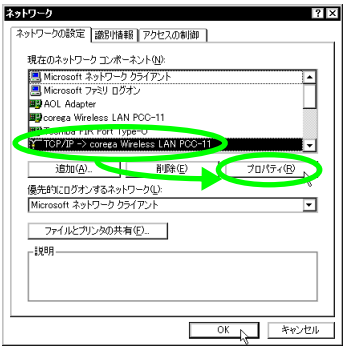
(3) 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

Windows95 の場合は、「現在のネットワークコンポーネント」が「現在のネットワーク構成」という表示になります。

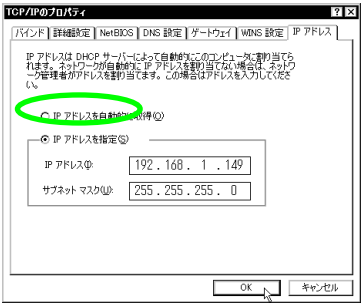


「TCP/IP」が「現在のネットワークコンポーネント」に無い場合は、「追加」ボタンをクリックし、プロトコルを追加してください。

(4) 「TCP/IP」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



(5) 「IP アドレス」タブで、「IP アドレスを指定」をチェックし、IP アドレスなどを設定します。



「IP アドレスを自動的に取得」
DHCP サーバには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があり、DHCP サーバがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレスを自動的に取得」を選択することができます。
無線 LAN ネットワーク上に、Windows NT サーバやダイヤルアップルータなどの DHCP サーバ機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。無線 LAN ネットワーク上に、Windows 98/95 のコンピュータしかない場合は、DHCP サーバは存在しません。

「IP アドレスを設定」
ネットワーク上の他のコンピュータに、既に IP アドレスが割り振られている場合には、ネットワーク管理者に IP アドレスを確認してください。

3.4 ネットワーク接続の確認

ネットワーク接続に関する設定が終了したら、正しくネットワーク接続ができているかどうかを確認します。

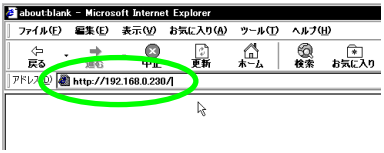
3.4.1 アクセスポイントの通信状態の確認

WEB 上で本製品の通信状態を確認することができます。有線 LAN よって本製品に接続されたコンピュータから、本製品にアクセスして通信状態を確認します。

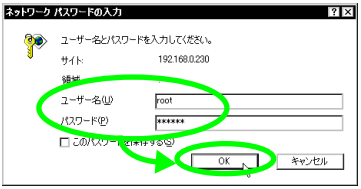
(1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として、説明します。

WEB ブラウザーは、「Internet Explorer 4.x」または「Netscape 3.x 」以降をご使用ください。

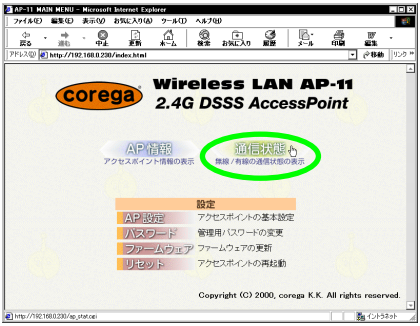
(2) 「アドレス」に本製品の IP アドレスを入力し、「Enter」キーを押します。ここでは、本製品の IP アドレスをデフォルトのままであると仮定し、「http://192.168.0.230/」と入力します。



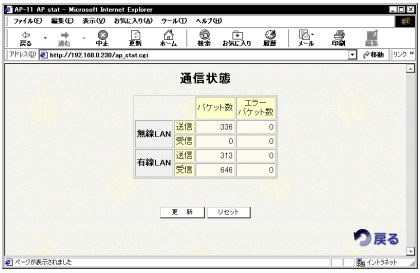
(3) パスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。ここでは、パスワードの設定がデフォルトのままであると仮定し、「corega」と入力します。



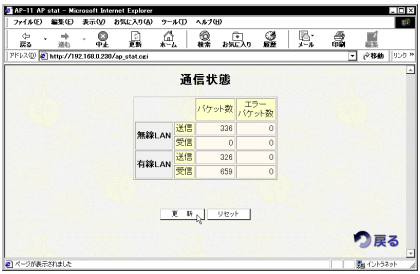
(4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。「通信状態」をクリックします。



(5) 有線 LAN 側と無線 LAN 側に分けて、送信／受信の、総パケット数と、エラーパケット数を表示します。



(6) 「更新」ボタンをクリックすると、最新の情報が表示されます。
また、「リセット」ボタンをクリックすると、パケット数が「0」にリセットされます。



(7) WEB ブラウザーを終了します。

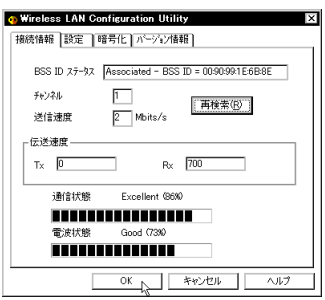
3.4.2 無線 LAN カードの接続情報の確認

アクセスポイントを経由して、無線通信を行っている場合には、無線LANカード側から、アクセスポイントとの接続状況を確認することができます。無線 LAN カードを取り付けたコンピュータで、「Configuration Utility」を起動し、「接続情報」タブで確認します。

(1) タスクバーに表示されている無線アイコンをクリックします。タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。

タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」メニューから「プログラム」→「corega WL PCC-11」→「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

(2) 「接続情報」タブをクリックすると、アクセスポイントとの接続状態を確認できます。



・「BSS ID ステータス」
アクセスポイントを使用して、ネットワークが接続できていれば、接続されているアクセスポイントの MAC アドレスが表示されます。

・「チャンネル」
現在使用しているチャンネルが表示されます。

・「送信速度」
無線 LAN ネットワークを構成する機器が対応している送信速度（単位は、Mbps）が表示されます。送信速度は、「1、2、5.5、11」のうちのいずれかが表示されます。

・「伝送速度」
現在の送信速度（「Tx」）と受信速度（「Rx」）が表示されます。

・「通信状態」
現在の通信状態を、「Excellent、Good、Fair、Poor、Not Connected、Not Applicable」の 6 段階と、「%」で表示します。また、通信状態の変化を、ステレオのレベルメータのように表示します。

・電波状態
現在の電波の状態を、「Excellent、Good、Fair、Poor、Not Connected、Not Applicable」の 6 段階と、「%」で表示します。また、電波状態の変化を、ステレオのレベルメータのように表示します。

・「再検索」ボタン
このボタンをクリックすると、無線ネットワーク上のアクセスポイントを検索します。

●ローミング機能
本製品は、ローミング機能（複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能）に対応していますので、複数のアクセスポイント間を移動しても、再接続などの必要はありません。

ローミング中は、ネットワーク接続が切断されたり、データ転送の遅延が発生することがあります。データの送受信中（ファイルの転送中など）には、アクセスポイント間を移動しないようにしてください。

3.4.3 「ネットワークコンピュータ」から確認

(1) 「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

(2) 「ネットワークコンピュータ」に、無線 LAN および有線 LAN で接続されているコンピュータが表示されます。

3.4.4 「Ping」で接続を確認

無線側のコンピュータから、有線側に接続されているコンピュータのIPアドレスを指定し、通信ができることを確認します。

「Ping」コマンドを実行するには、TCP/IP プロトコルがインストールされていなければなりません。

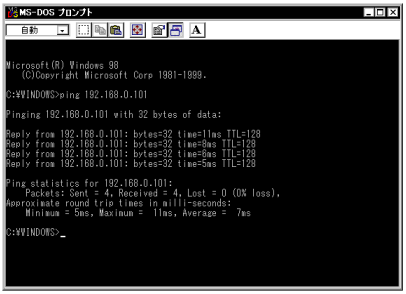
(1) コンピュータのネットワーク設定で、「TCP/IP」プロトコルの IP アドレスなどが正しく設定されていることを確認します。

(2) 「スタート」メニューから、「プログラム」→「MS-DOS プロンプト」を選択します。

(3) 「Ping」コマンドで、接続先のコンピュータの IP アドレスを指定し、通信できることを確認します。

コマンド入力例
C:\WINDOWS>ping xxx. xxx. xxx. xxx
xxx. xxx. xxx. xxx の部分には、接続先のコンピュータの IP アドレスを入力します。

(4) 正常に通信ができている場合には、次のように表示されます。ここでは、接続先のコンピュータのアドレスを、「192.168.0.101」としています。



4 設定管理ツールの詳細説明

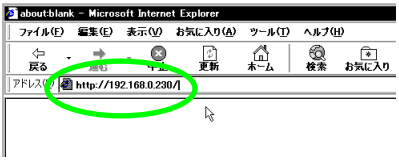
本製品は、WEB 上から、通信状態の監視や制御を行ったり、設定の変更や確認を行うことができます。有線 LAN で本製品に接続されていれば、離れた位置にあるコンピュータからでも本製品にアクセスすることができるので、遠隔監視、操作が可能です。
設定管理ツールの詳細について説明します。

4.1 起動方法

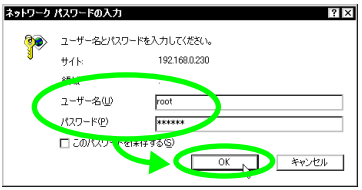
WEB 設定ツールは、次の手順で起動します。

(1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用して説明します。

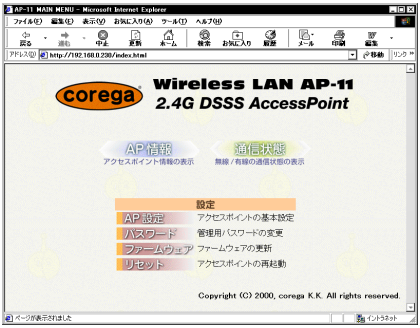
(2) 「アドレス」に本製品の IP アドレスを入力し、「Enter」キーを押します。ここでは、本製品の IP アドレスをデフォルトのままであると仮定し、「http://192.168.0.230/」と入力します。



(3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。
「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、パスワードの設定がデフォルトのままであると仮定し、「パスワード」に、「corega」と入力します。



(4)　設定管理ツールの起動画面が表示されます。



4.2 AP 情報

起動画面で、「AP 情報」をクリックすると、本製品に設定されている情報を表示します。

表示項目の一覧は、次の通りです。

AP 情報	
ファームウェアバージョン	本製品のファームウェアバージョンを表示
カードバージョン	本製品に内蔵されている無線 LAN カードのバージョンを表示
SSID	本製品の SSID を表示
チャンネル番号	本製品との通信に使用しているチャンネルを表示
Mac アドレス（有線）	本製品の MAC アドレスを表示
Mac アドレス（無線）	本製品に内蔵されている無線 LAN カードの MAC アドレスを表示
IP アドレス	本製品の IP アドレスを表示
サブネットマスク	本製品の属するネットワークグループのサブネットマスクを表示
ブロードキャスト	本製品の属するネットワークグループのブロードキャストを表示
暗号	暗号の有効／無効を表示

「AP 情報」をクリックすると、Power LED が消灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

4.3 通信状態

起動画面で、「通信状態」をクリックすると、本製品の現在の通信状態を表示します。表示される項目は次の通りです。

通信状態		
有線 LAN 側		
送信	送信パケット数	有線 LAN 側に送信されたパケット数を表示
	送信エラーパケット	有線 LAN 側の送信エラーパケット数を表示
受信	受信パケット数	有線 LAN 側から受信したパケット数を表示
	受信エラーパケット	有線 LAN 側の受信エラーパケット数を表示
無線 LAN 側		
送信	送信パケット数	無線 LAN 側に送信されたパケット数を表示
	送信エラーパケット	無線 LAN 側の送信エラーパケット数を表示
受信	受信パケット数	無線 LAN 側から受信したパケット数を表示
	受信エラーパケット	無線 LAN 側の受信エラーパケット数を表示

4.4 設定

4.4.1　AP 設定

本製品で設定できる基本的な項目を設定します。設定が終了したら、「更新」ボタンをクリックします。設定の変更を取り消したい場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。

AP 設定		
SSID		SSID を設定
チャンネル		通信に使用するチャンネルを設定
IP 設定	IP アドレス	本製品の IP アドレスを設定
	サブネットマスク	本製品の属するネットワークグループのサブネットマスクを設定
	ブロードキャスト	本製品の属するネットワークグループのブロードキャストを設定
WEP	暗号化	ON/OFF で暗号の有効／無効を選択 keyword を使う／直接入力するで、暗号化の方法を選択

key	キー文字列	暗号キーを作成するための文字列を入力
Code	Default Key	使用する暗号キーの番号を選択
	key1 ～ key4	4 種類の暗号キーを表示

4.4.2 パスワード

本製品の管理用パスワードを設定します。設定が終了したら、「変更」 ボタンをクリックします。

パスワード	
新パスワード	新しいパスワードを設定
パスワード確認	確認のために、新しいパスワードを再度入力

4.5 ファームウェア

本製品のファームウェアはバージョンアップされることがあります。ファームウェアの更新手順は次の通りです。

下記のファームウェア更新手順は、ファームウェアバージョンによって異なる場合があります。最新の更新手順については、ファームウェアの「README」をお読みになるか、更新手順の説明ファイルを入手されることをお勧めします。

ファームウェアをアップデートすると、本製品の設定は、全て初期設定に戻ってしまいますので、現在の設定を記録するなどして、忘れないように注意してください。

4.5.1 ファームウェア更新の準備

(1) 最新版のファームウェアとAPユーティリティーを入手します。入手方法に付きましては、「E.3 最新ファームウェアの入手方法」(p.35) を参照してください。

注意

更新用のデータは、「ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ」など半角カタカナを含んだディレクトリには置かないでください。ファームウェアの更新に失敗することがあります。

(2) ダウンロードしたファイル「AP11Fxxx.exe」をダブルクリックします。

ファイル名の「xxx」は、ファームウェアバージョンを表します。この数字は、バージョンアップされるごとにアップします。最新のファイル（数字の大きいもの）をダウンロードしてください。

(3) プログラムのインストール先を指定します。インストール先を変更したい場合は「参照」ボタンをクリックし、変更先を指定します。インストール先が決まったら「完了」ボタンをクリックします。

(4) セットアッププログラムが起動したら、「次へ」ボタンをクリックします。

(5) 「使用許諾契約」の内容を確認し,「はい」ボタンをクリックします。

(6) ユーティリティープログラムのインストール先を指定します。インストール先を変更したい場合は「参照」ボタンをクリックし、変更先を指定します。インストール先が決まったら「次へ」ボタンをクリックします。

(7) ユーティリティープログラムのフォルダを指定します。ファルダを変更したい場合は、「プログラムフォルダ」に新しいフォルダ名を指定するか、既存のフォルダから選択します。フォルダが決まったら「次へ」ボタンをクリックします。

(8) ユーティリティープログラムのインストールは終了です。「完了」ボタンをクリックします。

4.5.2 ファームウェア更新

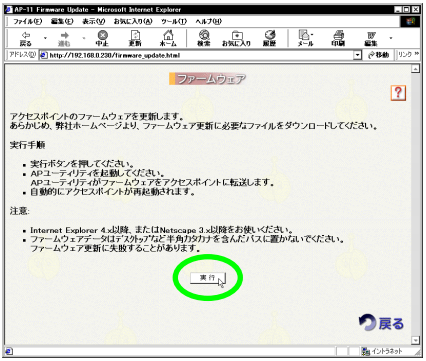
■ネットワーク経由のファームウェア更新

注意

「Internet Explorer 3.x」では、ファームウェア更新は実行できません。「Internet Explorer 4.x」または「Netscape 3.x」以降をご使用ください。

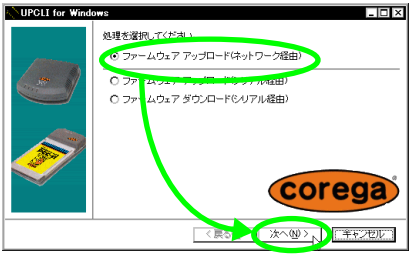
(1) WEB 設定ツールの起動画面で、「ファームウェア」をクリックします。

(2) 「実行」ボタンをクリックします。「実行」ボタンをクリックすると、本製品はファームウェア更新待ち状態になります。

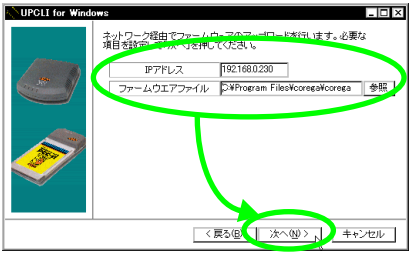


(3) 「スタート」メニューから、「corega WL AP-11」→「corega WL AP-11 Utility」をクリックし、AP ユーティリティー「upcli.exe」を起動します。

(4) 処理の選択画面で、「ファームウェア アップロード（ネットワーク経由）」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。



(5) 本製品（WL AP-11）の「IP アドレス」とアップロードするファームウェアファイルを設定します。設定が終わったら、「次へ」ボタンをクリックします。



アップロードするファームウェアがわからない場合は、「参照」ボタンをクリックし「C:\Program Files\corega\Wireless LAN AP-11 Utility」ディレクトリの「Corevxxx.bin」ファイルを選択します。

ファイル名の「xxx」は、ファームウェアバージョンを表します。この数字は、バージョンアップされるごとにアップします。最新のファイル（数字の大きいもの）を選択してください。

(6) 設定した「IP アドレス」と「ファームウェアファイル」を確認し、「実行」ボタンをクリックします。

(7) 「アクセスポイントにブラウザで接続してファームウェア更新を実行してください」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

(8) 「実行」ボタンをクリックします。AP ユーティリティーがファームウェアを本製品に転送し、再起動します。
転送時間は、1～2分です。

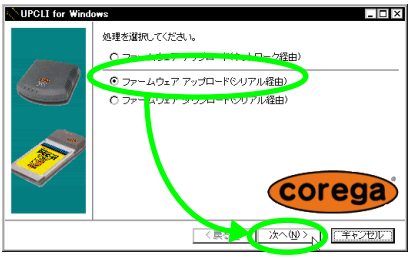
(9) 再起動後は、本製品は工場出荷時の設定に戻ります。「IP アドレス」がデフォルトの設定に戻ってしまい、本製品に正しくアクセスできない場合には、一度、WEB ブラウザーを終了してから、改めて本製品にアクセスしてください。

■ TERMINAL ポート経由のファームウェア更新

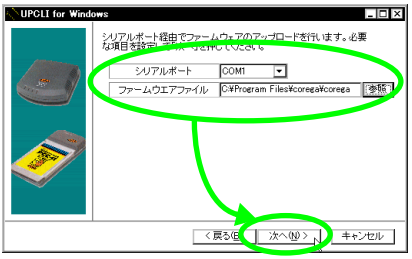
(1) 本製品の TERMINAL ポートと、コンピューターの RS232C コネクターを RS232C リバース（クロス）結線のケーブルで接続します。一旦、本製品の AC アダプターをコンセントから抜き、電源を OFF にしてください。

(2) AP ユーティリティープログラムを実行します。「スタート」メニュー から、「corega WL AP-11」→「corega WL AP-11 Utility」をクリックします。

(3) 処理の選択画面で、「ファームウェアアップロード (シリアル経由)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。



(4) 本製品が接続されている「シリアルポート番号」とアップロードするファームウェアファイルを設定します。設定が終わったら、「次へ」ボタンをクリックします。



アップロードするファームウェアがわからない場合は、「参照」ボタンをクリックし「C:\Program Files\corega\Wireless LAN AP-11 Utility」ディレクトリの「Corevxxx.bin」ファイルを選択します。

ファイル名の「xxx」は、ファームウェアバージョンを表します。この数字は、バージョンアップされるごとにアップします。最新のファイル（数字の大きいもの）を選択してください。

(5) 設定した「シリアルポート番号」と「ファームウェアファイル」を確認し、「実行」ボタンをクリックします。

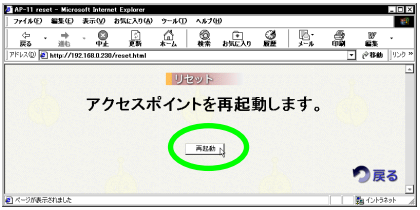
(6) 「アクセスポイントの電源が切れている ことを確認してください」と表示されたら、本製品の電源が OFF になっていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

(7) 本製品の AC アダプターをコンセントに挿し電源を ON にします。「実行」ボタンをクリックすると AP ユーティリティープログラムがファームウェアを本製品に転送し、再起動します。
転送時間は、4 ～ 5 分です。

(8) 再起動後は、本製品は工場出荷時の設定に戻ります。

4.6 再起動

(1) 「再起動」ボタンをクリックします。



(2) 本製品の再起動には、2 ～ 3 分程度の時間がかかります。再起動中は、LED が順番に点灯します。最後の Power LED が点灯するまで、お待ちください。

5 トラブルシューティング

ここでは、本製品使用 中のトラブルの 代表的な例と、その対処方法について説明します。主な現象ごとに、その原因と対応方法を説明していますが、よく分からない場合には、次の手順で本製品の状態を確認しながら、トラブルを解決してください。

1 本製品の設定画面は表示されますか？

2 無線カードを付けたコンピュータと接続できますか？

3 コンピュータのネットワーク設定は正しいですか？

5.1 設定画面が表示されない

5.1.1 有線側のコンピュータと接続できない

●原因 1
Power LED が点灯していない。

○対応方法
本製品の電源を確認します。AC アダプターが本製品とコンセントに正しく接続されているかどうかを確認します。

●原因 2
接続先機器（ハブまたはスイッチ）の LINK LED が点灯していない。

○対応方法
次の項目を確認してください。

・接続先の機器（ハブまたはスイッチ）の電源は入っているか。

・UTP ケーブルが正しく接続されているか。

・接続先機器の通信速度の設定は正しいですか。

●原因 3
有線側のコンピュータにLANアダプターのドライバーが正しくインストールされていない。

○対応方法
LAN アダプターのユーザーマニュアルを参照して、ドライバーをインストールし直してください。

●原因 4
TCP/IP プロトコルがインストールされていない。 または設定が正しくない。

○対応方法
「2.1 コンピュータの設定」（p.9）を参照し、 TCP/IP の設定を確認します。

5.1.2 設定画面が表示されない

●原因 1
本製品の設定変更を行うコンピュータの「IP アドレス」の設定が正しくない。

○対応方法
「2.1 コンピュータの設定」（p.9）を参照し、正しく IP アドレスを設定してください。

●原因 2
WEB ブラウザーに指定した、本製品の「IP アドレス」の設定が正しくない。

○対応方法
本製品の IP アドレスを確認し、アドレスに正しく入力します。デフォルトの設定では、「http://192.168.0.230/」と入力します。

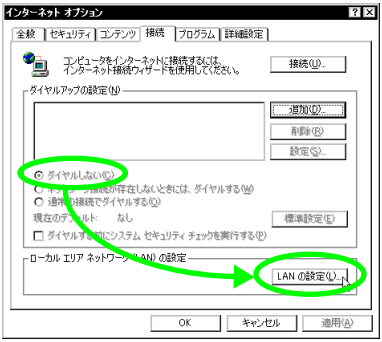
●原因 3
WEB ブラウザーの設定で、プロキシの設定がされている。または、モデムを使用してダイヤルするように設定されている。

○対応方法
プロキシを使用しない設定に変更します。また、ダイヤルしない設定に変更します。次の手順で設定を変更します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として、説明します。

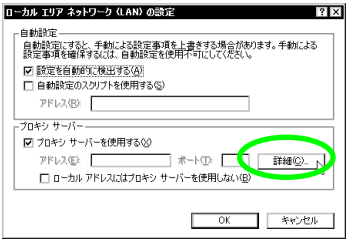
(1) 「Internet Explorer5」を起動します。

(2) 「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選択します。

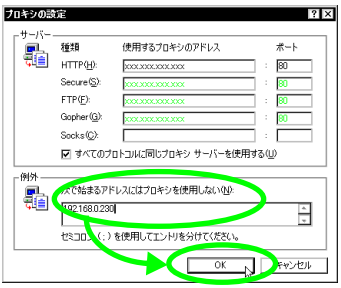
(3) 「ダイヤルしない」をクリックし、「LAN の設定」ボタンをクリックします。



(4) 「詳細」ボタンをクリックします。



(5) 「次で始まるアドレスには、プロキシを使用しない」に、本製品の IP アドレスを入力し、「OK」ボタンをクリックします。ここでは、本製品の IP アドレスが初期設定のままであると仮定し、「192.168.0.230」を入力します。



5.2 無線 LAN カードを付けたコンピュータと接続できない

5.2.1 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない

●原因 1
無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない。

○対応方法
「corega Wireless LAN PCC-11」のマニュアルを参照し、無線 LAN カードのドライバーを正しくインストールします。

●原因 2
電波状態が悪い

○対応方法
本製品を取り付けたコンピュータ間の距離を短くしたり、障害物をなくして見通しを良くしてから、再度通信してください。

5.2.2 無線 LAN カードとアクセスポイントの設定が合っていない

次に説明する原因と対応方法を参照して、無線 LAN カードの設定を「Configuration Utility」で、正しく設定し直してください。

原因	対応方法
無線アイコンが の場合	
アクセスポイントの電源は入っていますか？	アクセスポイントの電源をオンにしてください。
アクセスポイントが、見通せる位置に設置されていますか？	本製品を取り付けたコンピュータとアクセスポイントの距離を近づけたり、障害物をなくして見通しを良くしてください。
無線アイコンが の場合	
「通信モード」は「Infrastructure」ですか？	アクセスポイントを使用して通信を行うには、「通信モード」を「Infrastructure」に設定します。
「SSID」の設定は、合っていますか？	本製品を取り付けたコンピュータとアクセスポイントの「SSID」には、同じ文字列を設定します。
「暗号」設定は、合っていますか？	本製品を取り付けたコンピュータとアクセスポイントの暗号設定は、同じ設定にします。

5.3「ネットワークコンピュータ」に他のコンピュータが表示されない

●原因 1
ネットワークの設定が正しくない。

○対応方法
必要なプロトコルがインストールがされているか、コンピュータの識別情報が正しく設定されているか、共有設定が正しくなされているかを確認し、正しく設定し直します。無線 LAN カードを取り付けたコンピュータのネットワーク設定については、「corega Wireless LAN PCC-11」のマニュアルを参照してください。

●原因 2
TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

○対応方法
「2.1 コンピュータの設定」（p.9）を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

●原因 3
ネットワークパスワードを入力していない。

○対応方法
コンピュータを再起動して、ネットワークパスワードを入力します。

5.4 正常に動作しない

●原因 1
ご使用のコンピュータのパワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能が動作している。

○対応方法
パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能の設定を OFF（無効）にしてください。（詳細については、コンピュータのマニュアルを参考にしてください。）

●原因 2
本製品の再起動が正しく終了しない。

○対応方法
本製品の再起動が正しく終了した場合は、本体前面にある LED が順に点灯し、最後に Power LED が点灯します。設定管理ツールで設定を変更した後に、WEB 上で「再起動する」ボタンをクリックした時や、ファームウェアの更新後に本製品を再起動した場合に、再起動が正しく終了しなかった場合には、電源を再投入してください。

5.5 その他

5.5.1 パスワードを忘れてしまい、本製品にアクセスできない

本製品へのアクセスを制限するために、パスワードを設定することができます。このパスワードを忘れてしまうと、本製品にアクセスすることができません。
万が一、パスワードを忘れてしまった場合には、TERMINAL ポートから、ファームウェアをアップデートしなければなりません。この場合、RS232C リバース（クロス）結線のケーブルが必要になります。また、ファームウェアをアップデートすると、本製品の設定は、全て初期設定に戻ってしまいます。
ファームウェアのアップデートは、ファームウェアの「README」ファイルを熟読してから実行してください。
ご自身でファームウェアのアップデート作業が困難な場合は、弊社サポートセンターにて有償で承ります。

5.5.2 無線 LAN 通信ができなくなった

これまで、本製品と無線 LAN カードを使って通信ができていたのに、突然通信ができなくなってしまった場合には、次のような原因が考えられます。

●原因
本製品の近くに、SSID とチャンネル設定が同じアクセスポイントが存在するため、無線 LAN カードがアクセスポイントを検出できなくなり、通信することができない。

○対応方法
ネットワーク管理者に確認し、どちらかのアクセスポイントのチャンネル設定を変更してください。

5.5.3 近くのアクセスポイントに接続されない

近接したエリアに複数台のアクセスポイントが存在し、ご使用のコンピュータ（無線 LAN カード装着）から近いアクセスポイントに接続したいのに、別のアクセスポイントに接続されてしまう、また接続できても通信が遅い場合には、次のような原因が考えられます。

●原因 1
接続したいアクセスポイントの SSID と 無線 LAN カードの S SID の設定が異なっている。

○対応方法 1
ネットワーク管理者に確認して、接続したいアクセスポイントの SSID を確認し、同じ設定を行ってください。

●原因 2
複数台のアクセスポイントに、同じ SSID、チャンネル設定になっている。

○対応方法 2
複数台のアクセスポイントを近接したエリアでご使用になる場合は、アクセスポイントごとに異なるチャンネルを設定してください。また、電波の干渉を防ぐために、チャンネル番号は間隔をあけて設定してください。

設定例： チャンネル 1、6、11、14

●原因 3
接続したいアクセスポイントには暗号が設定されているのに、無線 LAN カードには暗号が設定されていない

○対応方法 3
ネットワーク管理者に確認して、接続したいアクセスポイントの暗号設定を確認し、同じ設定を行ってください。

5.5.4 IP アドレスの設定方法がわからない

次の設定方法を参考にして、IP アドレスを設定してください。

○ネットワーク上に DHCP サーバが存在する場合
DHCP サーバがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレス」設定画面で、「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。
DHCP サーバには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があります。無線 LAN ネットワーク上に、Windows NT サーバやダイヤルアップルータなどの DHCP サーバ機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。
無線 LAN ネットワーク上に、Windows 98/95 のコンピュータしかない場合は、DHCP サーバは存在しませんので、「IP アドレスを自動的に取得」することができません。
例えば、ダイヤルアップルータやケーブルテレビの装置（ケーブルモデム）に本製品を接続し、ノートパソコンを無線で接続する場合でも、ノートパソコンの IP アドレスをダイヤルアップルータやケーブルテレビの装置から、「DHCP で自動的に取得」することは可能です。

○ネットワーク上のコンピュータに、既に、IP アドレスが設置されている場合
ネットワーク管理者に、新しく設定する IP アドレスを確認してください。

○ネットワーク上のコンピュータに IP アドレスが設定されていない場合
コンピュータの IP アドレスを次のように設定します。

IP アドレスの設定例
コンピュータ A ： 192.168. 0. 1（255.255.255. 0）
コンピュータ B ： 192.168. 0. 2（255.255.255. 0）
コンピュータ C ： 192.168. 0. 3（255.255.255. 0）

アクセスポイント ： 192.168. 0. 230（255.255.255. 0）

コンピュータ X ： 192.168. 0.254（255.255.255. 0）

上記のように、プライベートアドレスとして、ユーザーが独自に定義して IP アドレスを使用することも可能ですが、このプライベートアドレスではインターネットにアクセスすることはできません。インターネットに接続する必要がない場合に、設定してください。

5.5.5 本製品の使用環境について

本製品は、電波を使用して通信を行っていますが、ご使用の環境によっては、「通信できない」、「通信速度が遅い」などの問題が発生することが考えられます。
下記の表を参考にして使用環境を調査し、環境に問題がある場合には、本製品（AP-11）の設置場所を変更する、仕切りを取り払う、無線 LAN 製品間の距離を短くするなどの対策を講じてください。

	物質の種類	使用環境例
電波を通す物質	木材 ガラス	木の仕切り、ドア 木造 2 階建ての 1 階と 2 階 ガラス窓、ドア
電波を通さない物質	石、煉瓦 セメント / コンクリート 鉄	石の壁、煉瓦の壁 セメント／コンクリートの床や壁 鉄の仕切り、ドア ユニットバス 鉄筋 2 階建ての 1 階と 2 階 防火ガラス（針金入りガラス）

A 付録

A.1 製品仕様

無線部	
規格	国際規格　IEEE 802.11、802.11b 国内規格　RCR STD-33、 ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz
変復調方式	DS-SS 方式
情報変換方式	CCK、DQPSK、DBPSK
アクセス制御方式	CSMA/CA
データ転送速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
サービスエリア	屋外 150m、屋内 50m（11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m）
スクランブル処理	WEP（RC4）
空中線電力	2mW/MHz
アンテナ形式	誘電体アンテナとスロットアンテナ
アンテナダイバーシティー	空間ダイバーシティー
有線部	
サポート規格	IEEE802.3
インタフェース	10BASE-T（MDI）
対応プロトコル	TCP/IP、IPX/SPX、NetBEUI
データ伝送速度	10Mbps
アクセス方式	CSMA/CD
電源部	
入力電圧	AC 100V （AC アダプターによる、外部電源型）
最大消費電力	7W
平均消費電流	0.8A
平均発熱量	4.47kcal/h
環境条件	
保管時温度	-10 ～ 60 ℃
保管時湿度	80% 以下（ただし結露なきこと）
動作時温度	0 ～40 ℃
動作時湿度	80% 以下（ただし結露なきこと）
外形寸法	
	142(W) × 176(D) × 40(H) （突起部含まず）
重量	
	本体　約 370g
取得承認	
EMI 規格	VCCI クラス B

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

A.2 MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器（アダプター）のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の（unique、ユニークな）アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト（48ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています（表記は全て 16 進数）。

00　90　99　　22　xx　xx
ベンダーID　　通し番号

- ベンダー ID
  LAN ベンダー（LAN 用機器を製造しているメーカー）が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。
- 通し番号
  この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、「22 10 00」から始まる6 桁の数値となっています。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。

MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用されるIPアドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

B TERMINAL ポートからの設定

ここでは、本製品の TERMINAL ポートとコンピュータを接続して、本製品の設定を変更する手順について説明します。

B.1 用意するもの

- RS232C リバース（クロス）結線のケーブル
- 「ハイパーターミナル」等のターミナルソフト（Windows98/95 標準装備）

B.2 本製品とコンピュータの接続

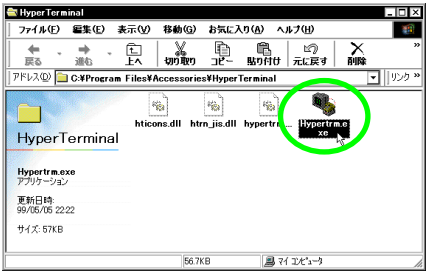
(1) 本製品のターミナルポートに、RS232C リバース（クロス）結線のケーブルの 9 ピンメスの D-Sub コネクターを接続します。

(2) コンピュータの RS232C コネクター（Com1）に、RS232C ケーブルのもう一端（ご使用のコンピュータの RS232C コネクターに適合するもの）を接続します。

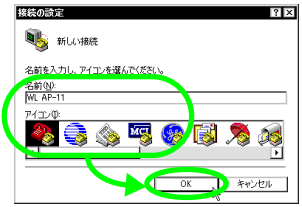
B.3 ターミナルソフトの設定と起動

ここでは、Windows98 に標準装備されている「ハイパーターミナル」を使用する場合を例として、説明します。

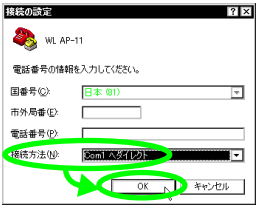
(1) 「スタート」メニューから、「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」を選択します。「HyperTerminal」フォルダの、「Hypertrm.exe」アイコンをダブルクリックして起動します。



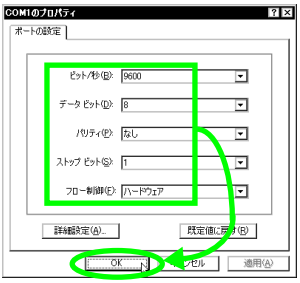
(2) 「環境の設定」ダイアログボックスで、「名前」を入力し、適当なアイコンを選択して、「OK」ボタンをクリックします。モデムのインストールをするかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。



(3) 「接続の設定」ダイアログボックス（Windows95 では、「電話番号」ダイアログと表示される）の「接続方法」で「Com1 へダイレクト」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。

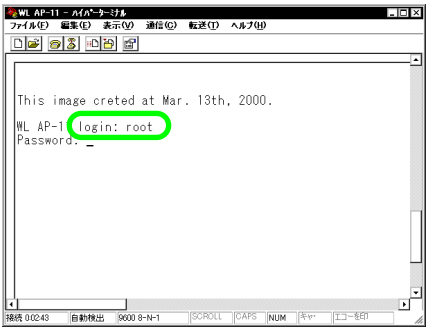


(4) 「Com1 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。各項目は、次の図のように設定し、「OK」ボタンをクリックします。



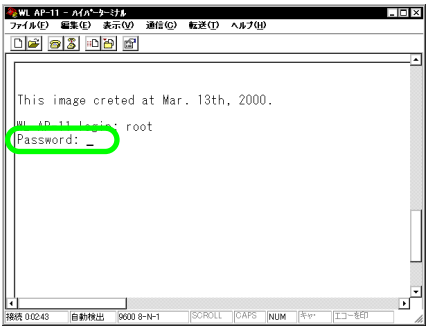
(5) 手順 (2) で指定した、「名前 - ハイパーターミナル」ウィンドウが表示されたら、「Enter」キーを押します。

(6) 「login」画面が表示されます。「login:」の後に「root」と入力し、「Enter」キーを押します。



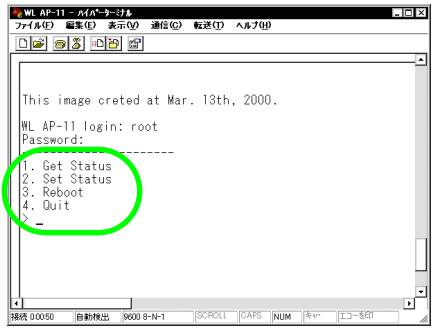
間違って入力した文字を修正したい場合、次の手順で設定を変更すると、「BackSpace」キーで 1 文字削除ができるようになります。
「ファイル」メニューから「プロパティ」をクリックし「WL AP-11 のプロパティ」を表示します。「設定」タブの、「BackSpace キーの使い方」で「Delete(D)」をクリックします。

(7) 「Password:」の後に、現在設定されているパスワードを入力し、「Enter」キーを押します。
デフォルトのパスワードは、「corega」です。



入力したパスワードは、画面に表示されません。

(8) パスワードを入力すると、メニュー画面が表示されます。



B.4 本製品の設定

パスワードを入力すると、メニュー画面が表示されます。TERMINAL ポートからの設定で実行できる項目は、次の通りです。

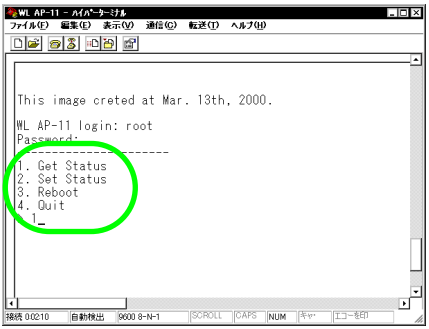
- 情報表示
- 設定変更
- 再起動

表示項目や設定手順は、ファームウェアバージョンによって異なる場合があります。最新の表示項目や設定手順については、TERMINAL ポートからの設定の説明ファイルを入手されることをお勧めします。

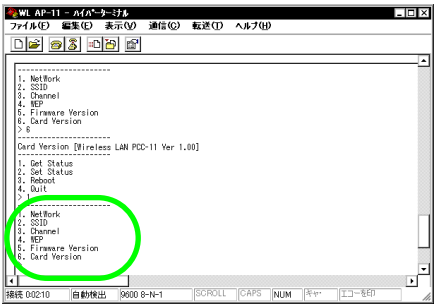
ここで表示される「Firmware Version」、「Card Version」は、お客様がご使用になっている本製品のファームウェアバージョン、カードのバージョンにより異なります。

B.4.1 情報表示

(1) 本製品の設定情報を表示するには、メニュー画面で、「1」を入力し、「Enter」キーを押します。

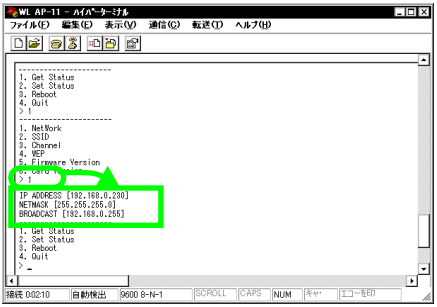


(2) メニューが表示されますので、参照したい項目の番号を入力し、「Enter」キーを押します。

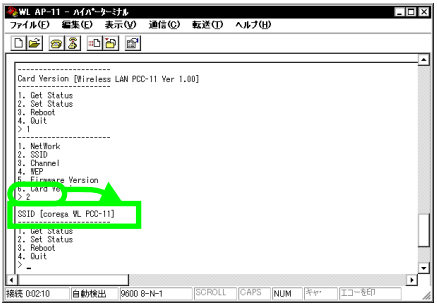


ここで参照できる項目は、次の 6 項目です。

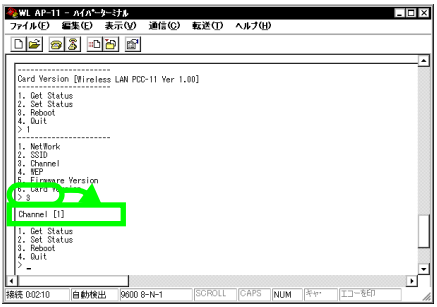
・「Network」
「1」を選択すると、本製品の「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ブロードキャスト」を表示します。



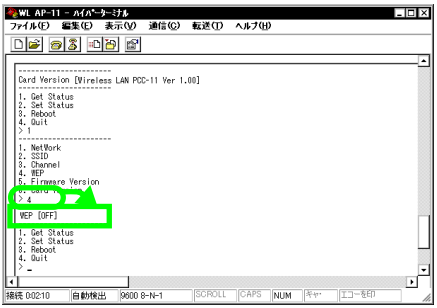
・「SSID」
「2」を選択すると、本製品の「SSID」を表示します。



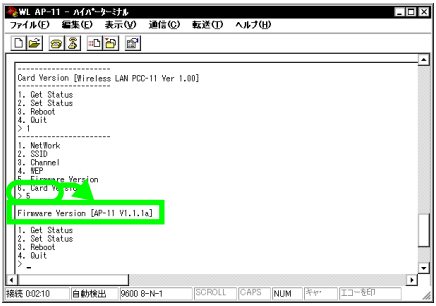
・「Channel」
「3」を選択すると、本製品との通信に使用しているチャンネルを表示します。



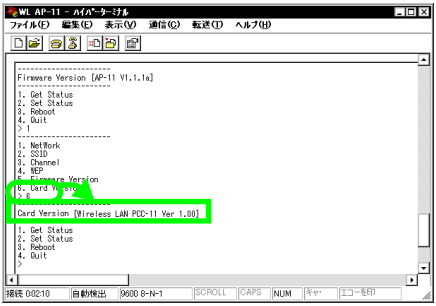
・「WEP」
「4」を選択すると、暗号設定の有効／無効を表示します。



・「Firmware Version」
「5」を選択すると、本製品のファームウェアバージョンを表示します。
ここで表示 されるファ ームウェアバージョンは、ご使用になっている本製品のファ ームウェアバージョンにより異なります。

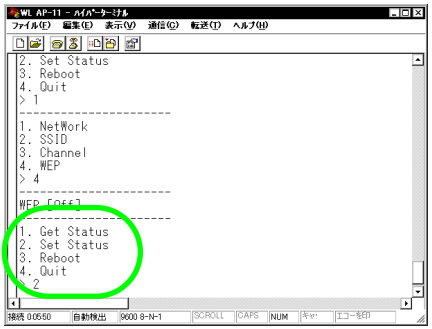


・「Card Version」
「6」を選択すると、本製品に内蔵されている無線 LAN カードのバージョンを表示します。
ここで表示されるカードバージョンは、本製品に内蔵されている無線 LAN カードのバージョンにより異なります。

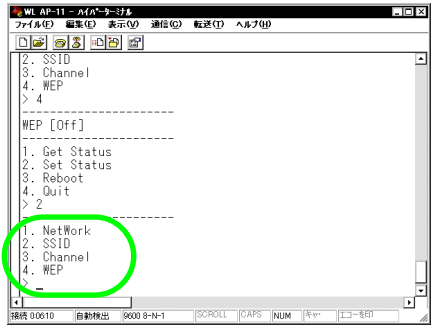


B.4.2 設定変更

(1) 本製品の設定を変更するには、メニュー画面で、「2」を入力し、「Enter」キーを押します。

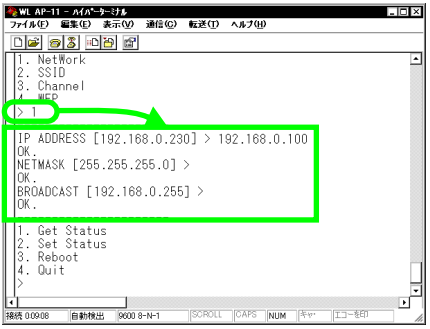


(2) メニューが表示されますので、変更したい項目の番号を入力し、「Enter」キーを押します。

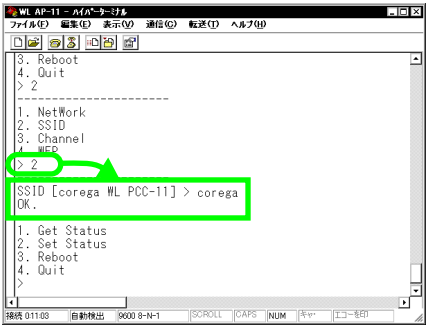


(3) 現在設定されている値が表示されますので、その後に、新しい設定を入力し、「Entre」キーを押します。
設定できる項目は、次の 4 項目です。

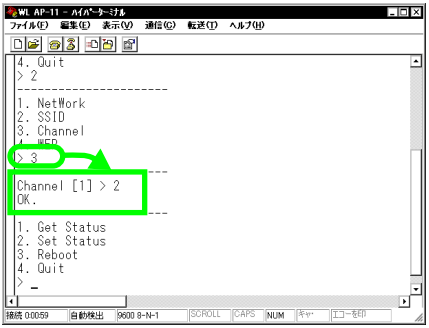
・「Network」
「1」を入力すると、本製品の「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ブロードキャスト」を変更できます。ここでは例として、「IP アドレス」だけを変更します。設定を変更しない場合は、「Enter」キーだけを押します。



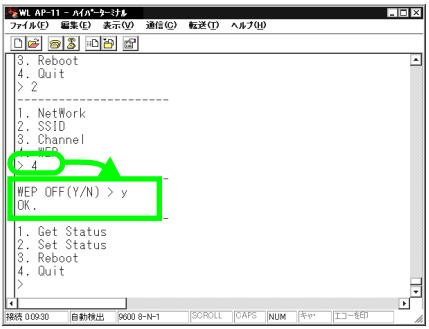
・「SSID」
「2」を入力すると、本製品の「SSID」を変更できます。



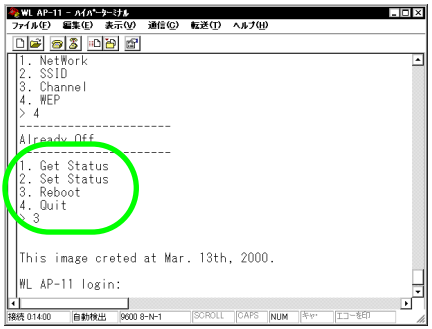
・「Channel」
「3」を入力すると、本製品との通信に使用しているチャンネルを変更できます。



・「WEP」
「4」を入力すると、暗号設定が有効になっている場合に、暗号設定を無効に変更することができます。無効にしたい場合は、「y」と入力します。

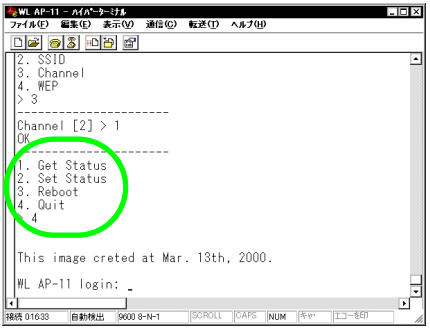


(4) 設定を変更した後は、必ず本製品を再起動してください。
本製品を再起動するには、メニュー画面で、「3」を入力します。
本製品の再起動には、しばらく時間がかかります。本体のLEDが順に点灯し、最後にPower LEDが点灯して再起動が終了するまで、お待ちください。



B.4.3 設定終了

本製品との接続を終了したい場合には、メニュー画面で「4」を入力し、「Enter」キーを押します。ターミナルソフトを終了します。



C 用語集

C.1 本製品の設定に関する用語

● AdHoc
「AdHoc」モードは無線 LAN ネットワーク構成の 1つで、無線 LAN カードを取り付けたコンピュータ同士でネットワークを構成する場合に使用します。コンピュータ同士は、ピアツーピアで接続され、お互いのリソースを共有することができます。

●Infrastructure
「Infrastructure」モードは無線 LAN ネットワーク構成の 1 つで、アクセスポイントを使用し、有線ネットワークと無線ネットワークを統合して 1 つのネットワークとして構成する場合に使用します。

● SSID
「SSID」（Service Set IDentifier）は無線LAN ネットワークを構成するコンピュータ同士を識別する名前です。同じネットワークに属するコンピュータまたはアクセスポイントは、同じ SSID を設定しなければなりません。「SSID」は、半角英数文字 32 文字以内（大文字、小文字も区別される）で設定します。（「SSID」の設定は、「Infrastructure」モードの場合に有効です。）

●通信方式
デフォルトでは、IEEE802.11 の周波数変換方式の RFC1042 モードが設定されています。古い無線 LAN のシステムと接続する場合は、ドロップダウンリストから他の通信方式を選択します。

●送信速度
送信速度は、無線 LAN ネットワークを構成するコンピュータが対応している速度から選択することができます。帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、「Fully Automatic（送信速度自動設定）」に設定しておきます。「Fully Automatic」に設定すると、送信速度はネットワークを構成するコンピュータに合わせて自動的に調整され、最適な速度で通信できるようになります。

●暗号
本製品は、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。WEP（Wired Equivalent Privacy）という暗号化方式を使用しています。WEP では、40ビットの組み合わせからなるキーを使用し、ネットワークへのアクセスをコントロールします。また、データの送信ごとに暗号化することによって、データの安全性を確保します。送信されたデータを解読するには、無線ネットワーク上のコンピュータにも、同じキーを設定しておかなければなりません。

●チャンネル
無線 LAN 通信で使用される、IEEE802.11 のデフォルトのチャンネルを設定します。

●ローミング機能
複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能です。アクセスポイント間を移動しても、再接続などの必要はありません。

C.2 ネットワーク関連の用語

●ピアツーピア接続
コンピュータ同士が、1 対 1 で対等に行う通信です。サーバーとクライアントのように機能を分化せず、お互いの機能を利用して通信を行い、ファイルやプリンタなどの資源を共有することができます。

● Microsoft ネットワーククライアント
Windows 98/95 などのサーバーサービスを利用するためのクライアントソフトウェアです。通常、プロトコルには、「NetBEUI」が使用されます。

● NetBEUI プロトコル
小中規模のネットワークトランスポートプロトコルです。NetBEUI は、OSI参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。これを、NetBIOS と統合することにより、ワークグループ LAN 環境で効率的な通信システムが実現されます。Windows 98/95 でサポートされています。

● TCP/IP プロトコル
インターネットで使用されているプロトコルで OSI 参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。TCP/IP プロトコルを使用すると、異なるプラットフォームのコンピュータ同士でも通信することができます。

●無線 LAN
配線を必要としない LAN（Local Area Network）のことです。1つの建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で、電波や赤外線、レーザーを使用してネットワークを構築します。

●アクセスポイント
無線 LAN から有線 LAN のネットワーク上のコンピュータに通信するための装置です。

D 保証と修理について

D.1 保証について

本書に記載されている 「製品保証規定」 を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で製品を保証するということではありません。 正しい使用法で使用した場合のみ、保証の対象となります。 また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。詳しくは、本書に記載されている「製品保証規定」をお読みください。また、本製品（ドライバーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

D.2 修理について

故障と思われる現象が発生した場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。 現象が改善され ない場合は、巻末の 「調査依 頼書」 をコピーしたものに必要事項をご記入の上、 保証書を添付し、 弊社サポートセンター宛に製品をお送りください。

「corega Wireless LAN Pack-11」を ご購 入 された方 は、Pack-11 専用の保証書をご使用ください。

製品を送られる場合は、次の点にご注意ください。

- 弊社サポー トセンターへ 製品を送られ る場合の送料 につきましては、送り主様のご負担とさせていただきます。
  なお輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 宅配便など、送付の控えが残る方法 でお送りください。（普通郵便による送付は、固くお断りいたします。）
- 修理期間は、製品到着後 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

製品送付先
〒 222-0033　横浜市港北区新横浜 1-19-20
（株）コレガ　corega サポートセンター宛

E ユーザーサポートについて

障害回 避などの ユーザーサポートは、巻末の 「調査依頼書」 をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。 できるだけ電話による直接 の問い合わ せは避けてください。 FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」 をご覧ください。

Tel:　045-476-6268
月～金（祝・祭日を除く）
10:00-12:00、13:00-17:00

Fax:　045-476-6294
年中無休 24 時間

なお、電子メールによるサポートは行っておりませんので、ご了承ください。

E.1 corega Net-News の購読について

■ coregaのホームページにアクセスしてください!

http://www.corega.co.jp/

corega ホームページにアクセスすれば、商品の詳細や PC 動作検証リストはもちろん、FAQ などコレガに関するすべての情報が入手できます。ダイレクトショッピングからドライバーのダウンロードまで、便利なサービスも満載で、何でもおまかせのホームページです。

■ corega Net-News を購読しませんか?

corega Net-News は、コレガ社がお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。ホームページのアップデート情報もお知らせしますので大変便利です。
corega ホームページから、どなたにもご登録いただけますので、是非、 ご利用ください。

E.2 調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。 障害を解決するためにも以下の点にそって、 十分な情報をお知らせください。 記入用紙で書き切れ ない場合には、別途プリント アウトなどを添付してください。

■ハードウェアとソフトウェア

***** 本体 裏面に貼られ たラベルに記 入されている 下記のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) を調査依頼書に記入してください。

(例) S/N 000770000002346 Rev 1A

* ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。

* 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入ください。

■お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。

* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。

* 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

■ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

E.3 最新ファームウェアの入手方法

当社は、改良などのために予告なく、本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、コレガのホームページから入手することができます。

■ホームページからの入手

(1) Internet Explorer、Netscape Navigatorなどの WEBブラウザーを使用して、コレガのホームページ「http://www.corega.co.jp/」にアクセスします。

(2) 「サポート」をクリックします。

(3) 最新版のファームウェアはここで紹介されますので、項目を選択して、ダウンロードしてください。

F おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。

・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。

・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

・本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2000 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
その他、この文書に記載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2000 年 04月	Rev.A	初版
2000 年 06月	Rev.B	仕様変更

メモ

本製品の初期設定および、変更後の設定を記録しておきましょう。

基本設定		初期設定	変更後の設定
SSID		corega WL PCC-11	
チャンネル		チャンネル 1	
IP 設定	IP アドレス	192.168.0.230	
	サブネットマスク	255.255.255.0	
	ブロードキャスト	192.168.0.255	

ご自由にお使いください。

調査依頼書（ corega WirelessLAN AP-11 1/2）　年　月　日

一般事項

1. 会社名（個人名）：　　フリガナ：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒

   TEL:　(　　)　　FAX:　(　　)

2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　連絡先（TEL）：　(　　)

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のハードウェア機種（製品名）、シリアル番号、リビジョン

   製品名：corega Wireless LAN AP-11
   ファームウェアバージョン　Version

2. ご使用のコンピュータ機種と併用している他メーカーの拡張アダプター（ボード）
   コンピュータのメーカ名／機種
   OS とバージョン
   拡張アダプターのメーカー名／機種

お問い合わせ内容

□別紙あり　□別紙なし
□設置中に起こっている障害　□設置後、運用中に起こっている障害

調査依頼書（ corega WirelessLAN AP-11 2/2） 年 月 日

ネットワーク構成

□別紙あり □別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

・ ハードウェア本体：製品保証書に記載の保証期間で無償保証とします。（ただし、本規定の他の条項に準じます。）

・ 電源アダプター／電源ケーブル：1年保証

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合
9. 本製品のファームウェアのアップデートを弊社に依頼された場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名　corega Wireless LAN AP-11

シリアル番号
（S/N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター
TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294
〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-19-20
受け付け時間： 10:00～12:00/13:00～17:00
月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印がない場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。
※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。